血液-214

再発又は難治性の多発性骨髄腫
ダラキューロ＋ベルケイド＋デキサメタゾン（DBd）併用療法　患者ﾌﾟﾛﾄｺｰﾙ

催吐リスク
軽度
放射線併用なし

投与プロトコール 1～8コース目：21日間 9コース目以降：28日間　制限なし 《開始時基準　PS：0-2、年齢：18歳以上》	投与量	投与日	投与時間	備考
1～3コース目　（1コース：21日間）				
プレメディ	モンテルカスト10mg（1コースday1のみ全例必須）※1	day1	1時間前	※1 1コースday8以降モンテルカストは任意 ※2 レナデックス（ダラキューロ投与日）は、ダラキューロ投与の1時間前に投与
	抗ヒスタミン剤＋解熱鎮痛剤（アセトアミノフェン1000mg）	day1,8,15 ※1	1時間前	
内服	レナデックス錠：20mg/body/日※3	mg day1,2,4,5,8,9,11,12,15	1日1回※2	
プレメディおよびレナデックス投与後1時間経過して、ダラキューロの投与を開始する				
①	ダラキューロ：1800mg/body	mg day1,8,15	皮下注射	3～5分かけて投与
②	ベルケイド：1.3mg/m^2	mg day1,4,8,11	皮下注射※4	※4 ﾍﾞﾙｹｲﾄﾞは静脈内投与も可能。生食で1mg/mLの濃度に調製又は生食50mLに混注。
	1Vあたり生食1.2mLで溶解し、2.5mg/mLの濃度に調製			
4～8コース目　（1コース：21日間）				
プレメディ	抗ヒスタミン剤＋解熱鎮痛剤（アセトアミノフェン1000mg）	day1 ※1	1時間前	※1 1コースday8以降モンテルカストは任意 ※2 レナデックス（ダラキューロ投与日）は、ダラキューロ投与の1時間前に投与
内服	レナデックス錠：20mg/body/日※3	mg day1,2,4,5,8,9,11,12	1日1回※2	
プレメディおよびレナデックス投与後1時間経過して、ダラキューロの投与を開始する				
①	ダラキューロ：1800mg/body	mg day1	皮下注射	3～5分かけて投与
②	ベルケイド：1.3mg/m^2	mg day1,4,8,11	皮下注射※4	※4 ﾍﾞﾙｹｲﾄﾞは静脈内投与も可能。生食で1mg/mLの濃度に調製又は生食50mLに混注。
	1Vあたり生食1.2mLで溶解し、2.5mg/mLの濃度に調製			
9コース目以降　（1コース：28日間）				
プレメディ	抗ヒスタミン剤＋解熱鎮痛剤（アセトアミノフェン1000mg）	day1 ※1	1時間前	※1 1コースday8以降モンテルカストは任意
内服	レナデックス錠：20mg/body/日	mg day1	1時間前	
プレメディおよびレナデックス投与後1時間経過して、ダラキューロの投与を開始する				
①	ダラキューロ：1800mg/body	mg day1	皮下注射	3～5分かけて投与

※3　75歳を超える、過少体重（BMI<18.5）、コントロール不良の糖尿病またはステロイド療法に対する忍容性がない、または有害事象を発現した場合は、デキサメタゾン20mg/週で投与することを可とし、ダラキューロ投与日はダラキューロ投与前に20mg投与とする。

◆ダラキューロによるinfusion reactionを軽減させるために、投与開始1～3時間前に副腎皮質ホルモン、解熱鎮痛剤及び抗ヒスタミン剤を投与すること。（当院の運用としては、前投薬およびレナデックスの投与は1時間前を基本とする）
また、遅発性のinfusion reactionを軽減させるために、必要に応じてダラキューロ投与後に副腎皮質ホルモン等を投与すること 。

◆慢性閉塞性肺疾患若しくは気管支喘息のある患者又はそれらの既往歴のある患者では、ダラキューロ投与後に遅発性を含む気管支痙攣の発現リスクが高くなるおそれがある。
ダラキューロの投与後処置として気管支拡張薬及び吸入ステロイド薬の投与を考慮すること。

佐賀大学医学部附属病院